

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発！

月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）

電話 { (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

99.4.28 No. 4956

ガイドライン関連法案の成立許すな！

戦争法案の衆院可決弾劾

衆院可決弾劾！

昨日、政府・自民、自由連合政権は、公明党をとり込んで、新安保ガイドライン関連法案Ⅱ戦争法案の衆院可決を強行した。今日は再び「戦争のできる国家」としてアジア・世界の民衆に牙をむこうとしている。戦争の放棄をうたった憲法は踏みじられ、戦争への衝動と野望が渦まいている。

われわれは、怒りを込めて法案の衆院強行可決を弾劾し、廃案に追い込むために、新たな決意を込めて闘いぬくことを表明する。今ここで起ちあがらなければ歴史への重大な禍根を残すことになる。ありったけの力をふりしぼって闘いに起とう。

まさに戦争法案

関連法案は、「周辺事態法」「日米物品役務相互提供協定の改悪（有事ACSA）」「自衛隊法改悪」の三法案に及ぶもので、自衛隊の海外出兵と武器使用を合法化し、さらには国・地方自治体・民間を含む社会の一切の機能を戦争のために動員できることを定めている。まさに戦争法案であり、そのための国家総動員法である。地方自治体や労働者の戦争動員について、野呂田防衛庁長官は国会答弁で「日本の平和と安全に重大な影響をもつ事態なのだから、一般的な義務としては協力するのが当然であり常識だ」と答弁している。自公の「修正協議」によって、

「国会承認」規定がもりこまれたが、緊急時は事後承認とされており、何ひとつ意味をもつものではない。

歴史の岐路

かつての歴史をふり返るとき、われわれは「いつだったら戦争をふせげたのか」という問いを発せざるを得ない。日本帝国主義が一九三一年の「満州事変」にはじまる侵略戦争への道にのめり込んでゆく大きな歴史の岐路は、昭和恐慌、田中内閣の山東出兵から張作霖爆殺事件をへて治安維持法の改悪に到る一九二七年から二八年にあつた。われわれは、現在の情勢があまりにもその当時と極似していることに驚かざるを得ない。われわれは新たな歴史の岐路にたつている。そのことを片時も忘れてはならない。全力を尽くして闘おう。闘いはこれからだ。ガイドライン関連法の成立を絶対に阻止しよう。



《国会に怒りの声とどろく！》

昼夜の国会闘争

法案の衆院可決の日、反戦共同行動委員会と百万人署名運動は、新安保ガイドライン関連法案の衆院可決阻止に向けて、怒りの闘いにたちあがった。

東京・明治公園では、十二時過ぎから反戦共同行動委員会主催による全国総決起集会が開催され、防衛庁・国会に向けてのデモが闘われた。また並行して百万人署名運動は、八〇名の傍聴団を衆議院に送りだし、国会前の座り込みには三百人が結集した。

自民・自由・公明は午後二時八分、わざとおこる抗議の声を無視して法案の採決を強行。デモの最中に可決強行の報が届くや、参加者全員が怒りの声が東京の空に轟いた。

怒りの声、日比谷野音を埋める

夕刻からは、日比谷野外音楽堂で、百万人署名運動主催による全国総決起集会が開催され、各地の労働組合・市民団体などが全国から二八〇〇名の仲間たちが結集し会場をうめ尽くした。集会は、沖縄反戦フォーカシングの歌で開会し、平和遺族会事務局長・西川重則さんの経過報告、衆議院議員・辻本清美さんの国会報告、宜保幸男さんの沖縄現地報告、評論家・中島誠さんの主催者あいさつ、各地の

連絡会を代表して栗原君子さんの決意表明などを受けて、国会デモに出発した。衆議院・参議院面会所前で出迎えた反対派議員も怒りに声を震わせながら、ともに関連法案の廃案に向けて、院内外での闘いを全力で強化することを誓いあつた。

闘いはこれから

労働千葉は、中江・水野選挙闘争の勝利をうけて、昼から夜にわたつたこの日の闘いに六〇名が結集し、全国の仲間たちとも闘いぬいた。また、百万人署名運動は七〇万を超え、この日には第七次分として二六万五三一七筆が国会に提出された。闘いはこれからだ。われわれは参議院での法案成立を断じて許さない。戦争への道は絶対に許してはならない。まなじりを決して闘いに起ちあがろう。



大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の労働千葉を創りあげよう！